

基盤見詰めて

美由喜タオル

オーガニック比率向上へ 最新レピア織機導入で

美由喜タオルはものづくり補助金を得て新織機を導入し、オーガニックコットン使用の多重織物の展開に取り組む。同社は5月、イテマワイバーン製のレピア式タオル織機シルバードT2300をネット幅の経通して1台増設した。従来機とのノウハウ共有も容易で、B品率の大幅低下を見込む。大判で品質管理が難しい主力のタオルケットでオーガニック製品の価格競争力の向上を期待するほか、多く手掛けるロープ用タオル地でも、地糸本数の多い多重織りが縫製に耐えるしつかりとした生地作りに寄与する。現在、見本作りに着手しており、自家需要ゾーンを狙い、商品開発を加速。現状10%程度のオーガニック使用の比率を引き上げたい」と北浦照彦社長は話す。

10月の「泉州こだわりタオル」展に向けた新作開発も進める。ベースは「染色なしで素材の本来の良さを伝える素うどんのようなタオル」を掲げて3年前に立ち上げた自社ブランド「ホワイト&ナチュラル」これにスレン系による透かし織りを組み合わせた進化版を披露する。

神藤タオル

雑貨向け販路に広がり 二・五重カーゼ軸に

神藤タオルは、雑貨ルートに販路を広げている。すでに売り上げの約半分を雑貨向けが占め、今後も「生活実用」に近い、ライフスタイルのトータル提案の「エアアイテム」での提案を重点課題としていく。その軸は、独自開発の変則三重織りの「二・五重カーゼタオル」だ。真ん中の層の織り密度を粗くし、空気を含み乾燥方法も駆使して、ガーゼの手触りとポリウム感を両立させた。同製品はシャトル織機で生産する。技術継承の点からも将来的な安定生産が危ぶまれていた主力商品「インナーパイル」に代わる商品として開発し、2011年から販売。デザイン会社オプステアインの商品開発プロジェクト「マイドインウエスト」への参加を機に、雑貨のトータルコーディネートへの「エアアイテム」として、従来用途にとられない展開を見せる。続いて同素材使用のストールも投入。専門店以外に、昨年から百貨店へも販路も広がる。共同で開発に取り組んだオプステアインはソフトウェアブランドなどインターネット用途も視野に海外への展開も検討している。

丸中

自社サイト販売拡大へ 自社の物流基盤を強化

自社サイト販売拡大へ 自社の物流基盤を強化

新興タオル

独自技術ストテックで オリジナルタオル充実

新興タオルが綾部紡績と共同開発した特殊二層構造のタオル専用糸「オシ表面をサラサラな状態フセツトヤーン」使用のタオルの注目度が高まっている。芯糸に逆方向に織、速吸水を実現する技術の同素材は、一般的な称し、モノ作りの軸に据える。

その端緒は2012年に「泉州こだわりタオル」で発表したタオル「おっ!えーやん」(新興タオル)から、軽さと柔らかさ、速乾性に優れる「おっ!えーやん」(新興タオル)をもち、速乾性に優れる。同年、大阪府が募った「大阪

製ブランドにも認定。これを機に販売も好調だ。高級感、しっとり感を補った「ストシリーズ」の展開にも取り組む。「ライト」(スタンダード)「リッチ」の3タイプで軽さ、肌触りのバリエーションを充実させる。

袋谷タオル

「雫」シリーズ新色挑戦 府下特産品から染料選ぶ

袋谷タオルはオリジナルタオル「雫」シリーズに新色を検討している。同製品は、地元産の野菜から色素を抽出した天然染料で染めた糸を織り上げたもの。現在は水なす、玉ねぎ、キャベツ、水なす漬けとセツト



水なす染めタオルは、J.C.O Mチャンネルが大阪府南部と和歌山県北部で放映する地域情報番組「ホームタウンウィークリ」で6月中旬に1週間にわた

金野タオル

「シン」

金野タオル「シン」は、9月の「東京



軽さ、柔らかさ、速乾性に優れる「おっ!えーやん」(新興タオル)

税謝礼品に採用されている。泉佐野市のふるさと納



ユーモラスなデザインに人気を集まる(金野タオル)

防事 大埋

ルが」と尋ねられることの取り組みに力を入れま すいように開 と月早めます